

第4回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

◇開催日時：平成29年9月2日（土）13時～16時

◇会場：森と水の源流館

◇参加者

堂本・上田（三石小）、中谷（あやの台小）、新宮（平城小）、黒木（安楽川小）、竹田（金橋小）
島（郡山西小）、成瀬・尾上・上平（源流館）、北村（御所市教育委員）、守部・中澤（奈良教育大）

◇内容

1. 指導案の検討

(1) 「もっと行きたいな町たんけん」安楽川小学校 教諭 黒木 純

①教材研究

桃に適した気候：

桃に適した地形：

桃栽培の歴史：

桃栽培の工夫：

②指導観

桃栽培が盛んであることに気づかせたい

桃栽培への関心を高めたい

「考えさせる」ことなく工作に用いるので、この言葉は削除

ゴミは増える → 工作に用いる

③桃の種・葉を用いた工作

種の確保が重要 → 桃りゃんせ、缶詰工場



(2) 「私たちの住む街を見直そう」三石小学校 教諭 阪本 大樹

①地域の特徴

階段やスロープが多い

保育園や乳幼児のための施設はあるが、高齢者のための施設がない

②福祉とは何か

高齢者・障害者のためのものという捉えでいいのか。福祉の捉え方はもっと広い方がいいのではないか。

キャリア教育の視点から、どのようにして一緒に生きていくかという考え方もある。

村民の福祉：高齢者や障害者だけでなく、全ての人を対象としたもの

バリアフリー、色々な人を視野に入れている

ユニバーサルデザイン：すべての人が同じように使えるデザイン

モノを対象とした取組でなくてもいい。弱者の対する優しさにとどまっていほしくない

すべての人が幸せに、というのが福祉だろう。すべての人にとって幸福感を感じながら生きていける街にというのがいいのではないか。

モノだけでなく、声かけなどできているかなど、人にも焦点を当てて、自分たちの行動を振り返るとともに、市民への提案ができれば、なおいい。

(3)「調べて作ろう ～ 冬野菜編 ～」三石小学校 上田・堂本

①目を向けさせる

苦勞することで、大事に思えるようになる。内化する。

②感謝の表し方

無人販売ノートに書かれている感謝の言葉。自分たちは町の人々に感謝されているけど、畑の管理や貸してくれている人に自分たちは感謝の気持ちを表現できているか。

③主体的に取り組む態度について

学習を通してどのような行動・態度を明らかにすべき

④旬や季節について

スーパーにはいつでも手に入ることを考える。

フードマイレージを考えて食を考える

自分たちで野菜を育てることができることに気づかせる

⑤食文化と地域の気候や歴史と関わりがあることまで深く学んでほしい。それが食文化に対する見方・考え方を養うことにつながる。

(4)「大きくなあれ わたしたちの野さい」金橋小学校 教諭 竹田隼也

①ESDの視点 循環も含まれているのでその文言を明記する。

②牧場との連携は難しい

動画をとって紹介するのはどうか。

宇陀アニマルパークに芋づるを引き取ってもらい、動物が食べている様子を録画する

③昔は芋づるを食べていた。→自分たちで食べてはどうか

今も、芋づるが売られている。

いろいろなレシピが紹介されている

スイートポテトづくりの横でつくっては。

学校給食に相談するという手もある。



(5)「水の恵み 一下流にきれいな水を流す」郡山西小学校 教諭 島 俊彦

①3学期に実践することになった

②県の大和川をきれいにする取り組みに参加する児童が出てくればいい

③西小宣言

県の環境政策課に提案する。

来年度も取り組むのか。「島」宣言で終わってしまう可能性が強い。学校としての宣言にするなら、手順を踏む必要があるだろう。クラブ化するか。

自治体での宣言も同じ。なかなか広がらない。

④水質比較について

富雄川の水質が悪いことを取り上げると、その水を使って米作りをしている農家はどのように反応するかも考えた方がいい。

富雄川よりも、自分たちがつかったあとの大和川で比較した方がいい。大和川の水質については、県や浄化センターが詳しい。

吉野川分水は9月の終わり頃に通水が終わる。

⑤非農家との接点としての吉野川分水の価値

防火用水、景観などの多面的機能もある。

2. 授業構想

(1)「あやの台あたらしい魅力を作ろう ～グリーンツーリズム～」あやの台小 教諭 中谷

①今行っているエコマートを、各教科の内容から意味づける

総合（エコマート）を中心にしたESDカレンダーを作成し、それに各教科の学習を関連付ける
子どもたちによる商品開発 → 地域の行事で販売して利益を出す → 寄付



②他の地域に自分たちの地域のよさを伝えることができるか

他者に伝えるという課題を与えることで本気度を引き出す

人を呼べるよさを見つける

民泊体験した紀見野町のよさ(高い土地)を参考に、あやの台(高い土地)のよさを見出すことで、環境方面に向かうだろう。

国語：人物を推薦する

総合・国際交流：昨年度の交流から。姉妹都市を活用して。手紙のやりとり

社会：それぞれの土地の自然に目を向けさせ、環境にあわせた暮らし 暮らし・産業の工夫に気づかせたい

③あやの台の自然環境ー川・地形、家の庭も

町づくりとして景観を守ることの大切さ、家の庭づくりを頑張っている人に、その行為が街の景観づくりに寄与していることに気づいてもらう

3. 平城小学校の取り組みについて

①遠足だけでなく事前学習・事後学習があることが重要

②授業づくりセミナーで授業の目的を源流館のスタッフと現職教員が共通理解できている。

③これをモデル化していきたい。

次回は実践事例の発表

平成30年1月20日(土)13時～